とうきょう すくわくプログラム活動報告書

うめぐみ（２歳児）

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然遊び

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など） 春の戸外散歩時にカタツムリを見つけて飼育を始めたことで、さらにかたつむりに関心を深め、そこから他の生き物への興味を広げていく

２．活動スケジュール

・かたつむりの飼育 ・紙芝居や絵本、図鑑を用いてかたつむりの生活、食べ物等に関心を持てるようにしていく ・自分のかたつむりを作ることで、実物への愛着を深めていく

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具） ・飼育ケース・虫の観察用の白い箱・虫めがね ・かたつむりの生活がわかる紙芝居 ・分かりやすい図鑑や虫に関係する絵本 ・かたつむりの餌とフンの関係がわかる様々な食材・虫取り網

４.探究活動の実践

＜活動の内容＞

・かたつむりの飼育をきっかけに、紙芝居を用いて食べ物によってウンチの色が違うことや角の数、口の場所、歩き方等を知らせる。

・遊びの中でもかたつむりを手の届くところに置くようにし、観察する機会を増やしていく。

・かたつむりの製作を行う・かたつむりを模倣して動いてみる・動きの観察をする。

・かたつむりのお世話に携わる

・かたつむり以外の生き物の成長に目を向ける（アゲハ蝶・クワガタ）

・生き物探しをする中で、実際に自分でも虫取りの楽しさを味わう

＜活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育士との関わり＞

（活動内容、活動中に見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・絵本や紙芝居の読み聞かせ後、実際にかたつむりに親しむと、野菜の食べ後に気づいて「穴があいてる」「おいしかったかな」等と話したり、目を引っ込める様子に興味を持つ。

・かたつむりを黒い紙におくと、「みて、なんかあるよ」と、カタツムリが全身する方向に道筋が出来ていることに気付く。

・飼育ケースに何かあるのを発見！「まるいのある」「うんちかな」「たまご？」と興味をもっている。
・カタツムリの飼育以降、アゲハ蝶の幼虫やクワガタの飼育に取り組んだり、戸外でも生き物探しをすることが楽しみになり、図鑑にも興味をもっている。
・室内では布を振って「つかまえたよ」と、虫取りごっこをしている。玩具を虫に見立て、布を振って捕まえると、ブロックで作った虫かごに入れている。
・戸外では実際に小さな虫取り網を持ち、自分たちで虫取りに挑戦していた。

５.振り返り
＜振り返りによって得た先生の気づき＞
・継続的にカタツムリやクワガタを飼育することで、自然の生き物を身近に感じられている。1人ずつゆっくりと観察をしたり触れたりすることができ、最初は触り方や力加減が分からなかった子も、友だちがつんつんと触っている様子を見て、優しく接しようとする姿が見られた。
・図鑑や絵本でかたつむりの食べる物を探したり、カタツムリが食べる野菜の名前を確認しながら野菜を飼育ケースの中に入れるとご飯を食べている様子に興味を示している姿も見られた。普段は野菜を食べることを嫌がる子も「これはなんて名前？」と野菜に興味を示していた。
・カタツムリの卵を発見したが、「これがカタツムリの卵だよ」と伝えるのではなく、普段と同じようにじっくりと観察できる環境を作った。子ども自身が卵を見つけられるように声をかけていくと、「自分で見つけられた」という発見や喜びから、卵に対する印象も深くなったと感じる。また、子ども自身で見つけた時は「何か白いのがあるよ」「丸いのがあるよ」「卵なんじゃない？」と子どもの方から声があり、その後に卵が載っている紙芝居を見ることで、実際に見たものと紙芝居の写真が同じものだと気づいて興味を深めていた。
・虫に興味を示す姿が増えてきた中で子どもたちの「これはなに？」「どうして？」という疑問も多くなっていった。保育者も子どもの疑問を拾い、「なんだろうね？」と声をかけて図鑑を開いて一緒に探してきた。繰り返し行っていくうちに戸外散歩から帰ってくると、図鑑を開いて見つけたものと同じものを探している姿が多くなり不思議さや疑問に対して自分で探求しようとする姿が少しずつ見られるようになっていった。